

科目名	看護学原論Ⅱ（看護の発展） Principles of NursingⅡ			担当教員 (研究室番号)	灘波 浩子 (203) 鈴木 聡美 (306) 菅原 啓太 (204)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	1年次 後期	科目 区分	専門科目・実践基盤看護学			選択 区分	必修	単位数 (時間)	1(15)	授業 形態	講義	科目等 履修生	否
												オンライン	否
科目 目的	看護学原論Ⅰやその他科目の学修を踏まえ、看護学への関心を高め、看護の機能や看護職の責務について自らの考えを持つための基礎を築く。												
ディパロ・ ホリソン (DP)	主要なDP	B	人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。（知識・理解）										
	関連するDP	A G	A 人間の生命・尊厳・権利を擁護する社会的基盤について理解し、倫理観に基づいて行動することができる。（姿勢・態度） G 看護学に対する研究的視点をもち、主体的に学ぶ姿勢を有している。（関心・意欲）										
到達 目標	1. 看護実践の枠組みとなる看護理論（ナイチンゲール、ヘンダーソン、その他）について説明できる。 2. 科学的な根拠に基づく看護実践の重要性を説明できる。 3. 看護実践を支える法や政策、医療安全について、自己の考えを述べることができる。 4. グループワークで自己の考えを説明しつつ、他者の意見を受け入れ発展させることができる。 5. 看護について考察し、自己の考えとして論述できる。												
成績評価方法 (基準)		課題レポート（４回）による総合評価を行う。なお、課題レポートはそれぞれ60%以上の評価であることを単位認定の条件とする。											
再試験の有無と 基準等		課題レポートが合格基準に達しない者のうち、本人からの申請を担当教員が認めた場合、再度レポートを提出することができる。											
教科書		宮脇美保子編：看護学概論，第5版，メヂカルフレンド社，2021. ヴァージニア・ヘンダーソン著，湯楨ます他訳：看護の基本となるもの（再新装版），日本看護協会出版会，2016. フロレンス・ナイチンゲール著，湯楨ます他訳：看護覚え書，現代社，2011.											
参考書等		金井一薫：ナイチンゲール看護論・入門-『看護覚え書』を現代の視点で読む，現代社，2019. 筒井 真優美：看護理論家の業績と理論評価 第2版，医学書院，2020. そのほか、授業内で適宜紹介する。											
学生の主体性を伸ばす ための教育方法と学生 への期待		・テキスト・自ら調べた資料・体験談などを教材として「看護とは何か?」「看護者とは何者か?」について考えを深めましょう。また、グループでの話し合い等を通して、他者の考えを尊重しながら自分の意見を適切に主張する態度を身につけましょう。 ・授業は、学習者の能動的な学習への参加を基盤に仲間と共に学び合う協同学習を取り入れて進めます。それぞれが責任を持って事前・事後課題に取り組み、グループの中でそれぞれの役割を果たしつつ、各回のテーマについて多面から検討し、思考を深めていきましょう。											
備考													
回	学習項目					学習内容					主担当 教 員	授業 方法	
1回	オリエンテーション 実践の科学としての看護					科学的な根拠に基づいた看護実践（EBP）の重要性、看護の機能と責務について学ぶ					灘波 菅原	講義	
2回	看護実践のための枠組み①：看護理論を学ぶ意義、看護理論の発展					看護実践の拠り所となる看護理論を学ぶ意義を知る					鈴木	講義 演習	
3回	看護実践のための枠組み②：ナイチンゲール					ナイチンゲール『看護覚え書き』から、ナイチンゲールの主張を整理し、その内容をグループで共有することで理解を深める ＊課題レポート					灘波	演習	
4回	看護実践のための枠組み③：ヘンダーソン					ヘンダーソン『看護の基本となるもの』に記述されている基本的看護の構成要素から、ヘンダーソンの主張および看護独自の機能について、グループで情報共有し理解する ＊課題レポート					灘波	演習	
5回	看護実践のための枠組み④：その他の看護理論家					看護実践に看護を活用する意味を検討するとともに、その他の看護理論家の主張を整理する ＊課題レポート					鈴木	講義	
6回	医療安全と患者中心のケア					医療安全の概念を学び、患者中心のアプローチを通じて、医療ミスを予防し、患者の安全を確保する方法について検討する					灘波	講義 演習	
7回	看護実践を支える法、制度					看護実践にかかわる法律、政策・制度の重要性、看護の専門職能団体について学び、今後の課題を考える					灘波	講義 演習	
8回	21世紀に求められる看護 まとめ					21世紀に求められる看護（看護者の役割）について、看護の現状や看護研究の実際について知り、看護について今の自分の考えをまとめる ＊課題レポート					灘波	演習	

学 習 課 題	
夏季休暇中に、F. ナイチンゲール『看護覚え書き』とV. ヘンダーソン『看護の基本となるもの』を熟読し、最重要(赤)、重要(青)、面白い(緑)と思った箇所それぞれに線を引き、その理由を説明できるようにする。	
1回目（事前）：テキストを読み、EBPの意味と看護研究の必要性や課題の概略をつかむ。	
2回目（事前）：テキストを読み、看護理論の概略をつかむ。	
3回目（事前）：『看護覚え書き』でナイチンゲールが主張していることを、指定された用紙に整理する。 （事後）：グループワークでの学びを踏まえ、ナイチンゲールの主張をレポートに整理する。	
4回目（事前）：『看護の基本となるもの』でヘンダーソンが主張していることを、指定された用紙に整理する。 （事後）：グループワークでの学びを踏まえ、ヘンダーソンの主張をレポートに整理する。	
5回目（事後）：これまでのグループワークを通して、主な看護理論をレポートに整理する。	
6回目（事前）：テキストを読み、医療安全の取り組みと課題を自分なりに考えてくる。	
7回目（事前）：テキストを読み、看護実践に関わる法律や政策の課題について自分なりに考えてくる。	
8回目（事前）：看護学原論Ⅰも含めて、これまでの学習を振り返り、学習の点検（自己評価）を行う。 （事後）：21世紀に求められる看護、自分が目指す看護について、レポートに整理する。□	

実務経験を活かした教育の取組
・担当教員は、看護職として実務経験に加え、看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義・演習を行う。